

古墳群

和泉沢古墳群

位置 河北町中島字和泉沢（旧飯野川町）
町の北約3km

概説

古墳群として、資料第一集にも概略説明している。

中島と泉沢の高橋利男氏宅裏の山麓丘陵部の雜木林の中に50基以上の古墳群が原型を止めていた。外觀上積石塚状の円墳で、大きいもので高さ1.5m、直徑8mに達するものもある。昭和47年夏、伊藤信雄東北大名譽教授の調査があり、その後、古川高、佐々木教諭を技術陣とする発掘調査が行われ、対象物は3基だけであったが発掘によって次のような調査結果がでた。

○内部構造 砂岩の割石を平面形、長方形形状に壁面をそろえて積みあげた積石石室古墳である。周溝がなく、封土の状態も明瞭でない。

○出土遺物 土師器（壺、环）カメの破片、鉄斧、鐵鎌など。

○総合所見 石室は玄道と漢道の区別は明確でなく、石室も小さく奥石も小さい。その構造は鳴瀬、荒雄川流域の横穴式古墳の形式的模倣の、独自の古墳形式と見られる。その造営は9世紀頃（平安時代）と推定され、この地方の政治的・社会形成が一段と進れていたことを物語る。

このような形式的石室模倣の9世紀代の古墳群はその被葬者が如何なる階層の人々で、どのような政治的背景をもったものか、北上川下流にまれに見るこの最大の古墳群のもつ歴史的意義が大きい。

尚本遺跡は昭和48年11月県指定の文化財となった。



和泉沢古墳群（河北町中島）

実測図



和泉沢古墳群実測図

貝塚

大浦貝塚

位置 河北町尾崎字大浦（旧大川村），町の東約16km

概説

尾崎部落の南面長面湾の江畔、大浦の畠地からは各種の貝殻、縄文中～後期の土器片が発掘され、大浦の貝塚として知られて来た。しかし、北の隣接部の漆浜にも同様の土器片が発見されているので一帯が古代人の住居跡であったとも考えられる。

尚、大浦貝塚の地には、中世にも豪族が住んだ気配で、屋敷あとが確認できるし、浜にはその伝えもある。



大浦貝塚（河北町尾崎）

旧跡

鞍懸島

位置 河北町馬鞍字島越（旧飯野川町）、町の東北約6km

概説

馬鞍部落の南面入口、遠藤製材所の傍にある独立形の岩の小山。

天喜年間（1057年頃）源義家（八幡太郎）東征の途中、馬の鞍をこの島の松にかけて樹下に憩うたが故にその名が生れたと伝わる。或は馬鞍の地名はそれに因るものなのか？当

時は川の中の小島であったという。

「封内封土記」に曰く、「島越と号する地あり。島にあらず野外の高丘なり。土人伝えて言う。義家朝臣東征のとき、鞍を解いて樹下に憩う。その傍に石墳あり、これを石墳島という……云々」



鞍懸島（河北町馬鞍）

佛像



本尊聖観音像 (河北町釜谷) No.1



胎内仏、赤銅製の聖観音像 (河北町釜谷) No.3

聖観音座像

位 置 河北町釜谷字山根(旧大川村), 町の東約12km

由 緒 釜谷長谷山觀音寺のご本尊で、江戸時代より海上安全の仏として知られ、信仰者がきわめて多かった。

概 説

○外観 全長 87cm、像高 35cm 木彫一本造り座像。金ウルシー色に仕上げられ、宝冠その他、寶をつくした装身具とあいまち、まことに莊嚴である。

○時代 室町初期(1400年頃)の作。
光背、台座は江戸中期(1700年頃)の作。

○作者 不明。本尊は素朴な地方作。

〔注〕この觀音には胎内仏として赤銅製の聖觀音立像が共に祭られている。(像高約 7cm)



全 景 (河北町釜谷) No.2

阿弥陀如来懸仏

位 置 河北町三輪田字持領（旧二俣村），町の南約2km

概 説

高徳寺仏殿に安置の懸仏。

○外観 上品上生の阿弥陀仏。像高14.5cm。本体は薄金。

○時代 鎌倉時代末期（1300年頃）

○作者 不明。

〔注〕上品上生とは阿弥陀如来特有の一つの印相（手指でいろいろの形をつくる）で、両手を腹の前で組み、親指と人指をくっつけた形をいう。



阿弥陀如来懸仏 (河北町三輪田)

延命地蔵座像

位 置 河北町牧ノ巣（旧飯野川町），町の東北約5km

概 説

牧ノ巣の山下ただ子氏宅所蔵。

○外観 像高37cmの木彫寄木造りの座像で輪光を背負う。

○時代 室町時代後半（1500年代）。江戸時代に修補。

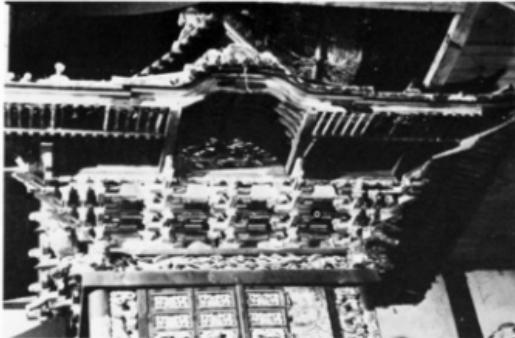
○作者 不明。

〔注〕延命地蔵とは延命利生を誓願する地蔵菩薩のこと。



延命地蔵座像 (河北町牧ノ巣)

建 築



聖厨子（宮殿）（河北町釜谷） No. 1



聖厨子（宮殿）（河北町釜谷） No. 2

聖厨子（宮殿）

位 置 河北町釜谷字山根（旧大川村），町の東約12km

由 緒 観音寺のご本尊、聖観音の厨子として、石巻の武山市四郎という信者が、630両の淨財を費やして製作寄進したものである。

設 置 宽保2年（1742年）

概 説

横130cm、たて90cmの槧現造り。各所に精密な彫刻をふんだんにとり入れ、金銀箔色彩で以て仕上げた宮建築の粧を見るような見事なものである。この厨子が別名「宮殿」と称されるのはそのためである。



聖厨子（宮殿）彫刻部分 No. 3

民間信仰

白馬ヶ滝不動明王

位置 河北町三輪田字新寺（旧二俣村），町の東南約3km

概説

三輪田新寺の奥、上品山への登り道の途中に白馬ヶ滝という三方が岩盤に囲まれ、沢が滝となって落ちる所がある。ここに石の不動明王が祭られ、その頭上に滝が落下し、一つの滝不動の形となる。

古くよりここは上品山での参籠修行僧のミソギの場としての聖地だったらしく「縁起」によると、不動尊を勧請したのは弘治元年（1555年）高徳寺開山一翁禪師で、その後宝永年間（1705年頃）全隆寺の桃林和尚がこの付近に新草庵という寺を造営し修業にはげんだとか、或は慶応年間（1865年頃）行者、教道という者がここで百日の山籠祈願を行ったとか書かれ、まことに歴史の深いところであった。今は廃寺となつたが、宝永年間に新草庵という寺が新設された故を以てこの地は新寺と称されたといふ。

現在の石の不動尊は慶応年間に建立されたものと推定される。白馬ヶ滝不動尊の靈駕はきわめてあらたかで、近郷近在によく知られ、春秋の祭礼には、この滝の付近は参詣人で大そうな賑わいを呈した。

青面金剛石仏

位置 河北町五十五人（旧大谷地村），町の西約5km

概説

五十五人の県道の路傍に立つ石造仏。高さ約1mの幅井石一杯に見事な青面金剛像が浮き彫りに刻まれ、寛保3年10月11日（1743年）建立奉納の意が記されている。

〔注〕青面金剛は本来は青色大金剛夜叉、伝屍鬼病という奇病を流行させる鬼神で、三眼六臂忿怒形で、全身にへびをまとった頭冠、環珞などをつける姿が多い。のちに庚申信仰の主尊となり、三猿、二鶴と一緒に彫られるようになった。



白馬ヶ滝不動明王（河北町三輪田）



青面金剛石仏（河北町五十五人）



弁 天 堂 (河北町福地) No. 2



弁天堂内の聖徳太子像 (河北町福地) No. 1

弁 天 講

位 置 河北町福地字町 (旧大川村), 町の東
約 8 km

概 説

横川部落には毎戸の長男 (家督) をもって組織される弁天講がある。年齢は下は不同であるが上は數え四十二歳までとする。最近は正月の獅子巡行や、部落の奉仕作業などが主たる行事となったが、古くは警火防火組合の元祖として著しい活躍を見せ、部落のエネルギーとなつた。

○由来

宝暦年間 (1751頃) の創立で、大忍寺内に祭られる弁才天がその講の信仰仏であった。ために弁天講の名で現在までその古い伝統、仕当たりが引きつがれている。

○弁天堂

現存の弁天堂は大正初め、横川大下の首藤家の氏神の堂宇をゆずり受けたものと伝わるが、この堂宇は江戸時代末期の作と思われ「流れ造り」の本格的建築であつて、その価値が高い。尚この堂内には十数基の聖徳太子木像が祭られているので、首藤家の時代には「太子堂」として造営されたものなのであろう。



弁天講による獅子巡行 (河北町福地) No. 3

大般若獅子舞行事

位 置 河北町釜谷（旧大川村），町の東約12km

概 説

釜谷契約講に於て江戸時代より行われている行事で、正月八日間一日行われる。

観音寺に所蔵の大般若波羅密多經六百巻は江戸中期において雄勝町大須浜、立浜の漁師有志より奉納された由緒深い経典であるが、当日はこの経の誦説を先導にして、部落戸毎に獅子巡行お祓いを行う。その主とするところは天下泰平、家内安全、悪霊降伏の祈願にある。

〔注〕観音寺所蔵の大般若波羅密多經六百巻は美術品としても価値高く、昭和52年新春に多賀城資料館に於て公開展示された。



大般若獅子舞行事 (河北町釜谷) No. 1



大般若獅子舞行事 (河北町釜谷) No. 2



水かけ祭（河北町釜谷）No.1

水かけ祭

位置 河北町釜谷（旧大川村），町の東約12km

概説

釜谷部落において古くより伝わる祭典奇習の一つである。部落の鎮守、稻荷神社の祭典にからみ、市の日（正月五日、十日）が午の日に当っていれば、その年の二月中に行われる。前の晩契約講中で選ばれた三人の未婚の男子を代参使者に立てるのが一つの条件。当日はこの三人は下帯一つの裸となり、身を潔斎し、腰にしめ縄をまき、わらじばきで街のかみ端から下端にある神社に向けて街中をは

しり抜けるのだが、その時戸毎に表に用意した手桶の冷水を自らかぶり、又はかけてもらい、家毎に祈願を重ねて神社に向うのである。

全身水びたしで、しかも早春の街をはしり抜けるのは中々の荒行であるが、昔から事故は勿論、風邪一つ引く者はいないという。



水かけ祭（河北町釜谷）No.2



釜 神 (河北町福地) No. 1



釜 神 (河北町飯野川)

釜 神

位 置 河北町福地字小福地（旧大川村），町の東約6km

概 説

小福地部落に現存する釜神で、No. 1は紫桃植氏屋敷のもの。材質は粘土でガラスの目が入っている。No. 2は加納茂氏屋敷のもので、粘土製で、目と歯にはアワビの殻を使い素朴であるが何か猛々しい感じがにじみでる。両家とも同部落では数百年の家歴を誇る。



釜 神 (河北町福地) No. 2

釜 神

位 置 河北町飯野川（旧飯野川町），町の中心部

概 説

飯野川本屋敷在住の及川徳雄氏宅には、雄勝町にて入手したという木彫の見事な釜神が所蔵される。この釜神は推定300年前の製作で、裏には大黒柱の上部に接合される脇（ほぞ）穴がほらされている。



釜 神 (河北町皿貝)

釜 神

位 置 河北町皿貝（旧飯野川町），町の東北
約 5 km

概 説

皿貝の遠藤良氏屋敷に祭られる木製の釜神で、この家歴は現在まで約 300 年を経ると
言う。



子 安 観 音 像

位 置 河北町福地字小福地（旧大川村），町
の東約 6 km

概 説

小福地の加納茂氏宅内に祭祀され、その地
の觀音講の信仰本尊でもある。

総長約 70cm、仏長 32cm の木彫寄木造り座像。子供を抱き、ペールをかぶったいわゆる
マリヤ觀音の姿態で、表現はやさしく、極彩
色に塗られ親しみやすい。江戸時代後半の作。
民間信仰の資料として価値が高い。

子 安 観 音 像 (河北町福地)

武具、美術工芸

刀 剣

位 置 河北町皿貝（旧飯野川町），町の東北
約6km

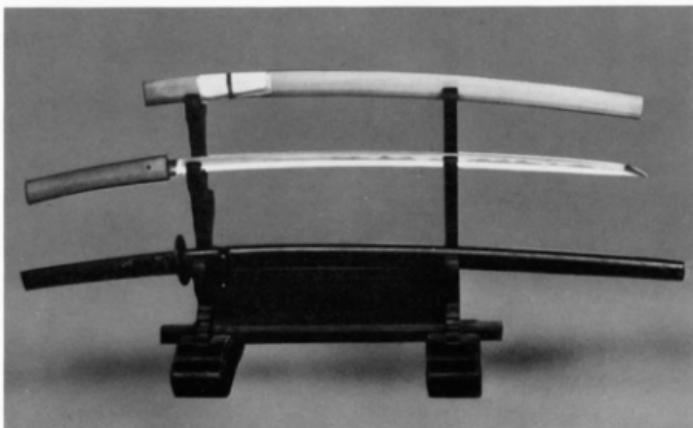
概 説

皿貝の及川文友氏所蔵。

○刀劍

薄田隼人正の指揮と伝わる。鉄は明珍で、
これに撃ち合いの柄が十数ヶ所にわたり見え
る。刀身2尺4寸3分（約73cm）、そり5
分5厘（約2cm）、目釘1。無銘。

大阪夏ノ陣にあたり片倉家の渋谷右馬丞
が、薄田隼人と一騎討のすえ奪いとりしも
ので、いろいろと奇怪な伝説がなされる無
気味な刀剣である。



刀 剣 (河北町皿貝)

薙 刀

○薙刀

相模守藤原広重作、刀身1尺8
寸7分（約56cm）、そり1寸（約
3cm）、目釘1、キリシタンマー
ク表裏に（+）（M）があり
珍重。

〔注〕刀剣、薙刀とともに片倉氏家
臣、赤井の村上家より、皿貝及
川氏の祖、及川松庵が持参した
と伝わる。



薙 刀
(河北町皿貝)

日 本 刀

位 置 河北町飯野字本地（旧大谷地村），町の西北約4km

概 説

飯野山神社の宝物殿に収納されている、いわゆる宝刀と呼ばれる日本刀である。赤間丹後守奉納、栗田口左衛門尉国友の作。長さ1.13cm、そり2.6cm、刀身は83.5cm。鎌倉時代の作。



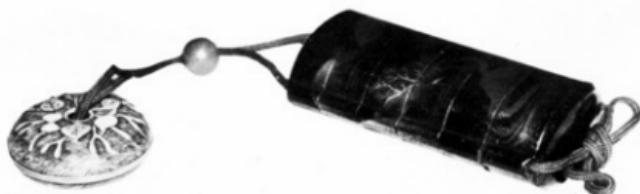
日 本 刀（宝刀）（河北町飯野本地）

印 篠

位 置 河北町飯野川（旧飯野川町），町の中心部

概 説

飯野川本屋敷及川徳雄氏所蔵のもので、金粉を梨子地にしたまき絵、いわゆる金梨子地の模様で、本体は六段に区切られ、まことに精巧な造りである。江戸時代の作。



印 篠（河北町飯野川）

火薬入れ

位置 河北町飯野川（旧飯野川町），町の中心部

概説

飯野川本屋敷の及川徳雄氏所蔵の種子ヶ島銃の先籠め用の火薬入器具である。長さ15cm，巾11cm，厚さ4cmの水筒状の木製器具であるが，表面一杯に彫られた紋様は中々見事である。江戸末期の作。



火薬入れ（河北町飯野川）



高麗青磁（河北町飯野川）

高麗青磁

位置 河北町飯野川（旧飯野川町），町の中心部

概説

飯野川本屋敷在住の及川徳雄氏所蔵のもので、約750年前の作と伝わり、韓国の池順鉢という人の鑑定書つきの逸品である。高さ7.7cm，径8cm，口徑3cmの小型の焼物だが、その色沢は高雅である。

奉納額



エゾ地図額（河北町五十五人）

エゾ地図額

位置 河北町五十五人（旧大谷地村），町の西約4km

概説

五十五人の広幡八幡神社社殿内にエゾ地の地図を模写した大きな額が一枚奉納されている。

一枚はたて1.56m，よこ1.88m。一枚はたて1.40m，よこ1.82m。文化六年三月一日（1809年）の記録が見える。

江戸末期の北海道の地理条件、当時の一般庶民のエゾ地に対する関心知識を占うための好箇の資料である。

文書



黒川晴氏文書 その1 (河北町小船越)



黒川晴氏文書 その2 (河北町小船越)

天正十六年正月二十七日の書状
今度於新沼高森被及難義候処、貴殿
彼地へ被相越候故、様子具ニ承知、大慶之至候
寔卿心底頼母數事ニ候。兔角者(は)雪齋(政景)
早速帰陳甚望計ニ候。尚此旨御心得
可然候。謹言

正月廿七日
細川安房守殿

晴氏 (花押)

黒川晴氏文書

位置 河北町小船越字崎山(旧大谷地村)
町の西約3km

概説

崎山の細川芳久氏所蔵。黒川晴氏(月舟斎)が重臣の細川安房守にあてた天正十五六年頃の文書である。黒川郡の郡主、中世豪族の黒川晴氏の書いたこの書状は当時の伊達、大崎合戦の様態とその手がかりを得るためにまことに貴重である。

天正十五年?八月十四日の書状
明晚為月見会、相模所へ可出駕候間貴殿ニても
可被相越候。尤二閑矢本其ノ外へ茂申越候。
大衝事ハ兼而氣色故、定而罷成間布(敷)候得共、乍去可申越候、恐々謹言

八月十四日
細川安房守殿

晴氏 (花押)

古木



桜 (河北町長面) No. 1



桜 (河北町長面) No. 2

桜

位 置 河北町長面字宮下園（旧大川村），町の東約16km

概 説

長面渋の西の江畔に宮下園という所がある。この地には往古、朝日長者が住んだと伝わり、山腹には樹齢300~400年を数える桜の古木が一本天高くそびえ、この木を伐ると血が出ると言われ、ために血染めの桜の別称がある。所有者木村仁男氏。

樹高約30m、目通り約6m、根回り約10m
枝の広がり約30m。



杉

位 置 河北町福地字小福地（旧大川村），町の東約6km

概 説

小福地，加納茂氏屋敷の裏にある。樹齡約300年。樹高約25m，目通り約4.1m，枝の広がり約20m。

杉 (河北町福地)



杉

位 置 河北町針岡字鳥屋森（旧大川村），町の東約10km

概 説

鳥屋森の羽黒神社の社前に一本の杉の古木がある。樹高約30m，目通り約2m，枝の広がり約17m。樹齡推定300年。

杉 (河北町針岡)

赤 松

位 置 河北町長面（旧大川村）町の東約15km
概 説

長面北野神社の境内に三本あり。
樹齡約 400年。

A	樹高約 40m, 目通り約 4.1m, 枝の広がり約 12m
B	タ
C	タ 4m タ

10m

ここの赤松群の樹高は町内隨一である。



赤 松 (河北町長面)



あ さ だ (河北町針岡)

あ さ だ

位 置 河北町針岡字鳥屋森（旧大川村），町の東約10km

概 説

鳥屋森黒神社の境内裏西側にある。北上山地にはまれな樹種で、且、巨木である。樹齡約 300年。樹高約 30m, 目通り約 3.2m, 枝の広がり約 17m。

[注]あきだ

山地にはえる落葉高木樹。大きなもので高さ 17m, 径 60cm ぐらいになる。

櫛

位 置 河北町針岡字芦早（旧大川村），町の
東約10km

概 説

芦早の佐々木忠雄氏所有。町道より山地へ通ずる跡傍に立つ。あたり一面におおいかむきの巨木。

樹齡推定 700年，樹高 18m，目通り 3m 以上，枝の広がり 22m。



櫛（かや）（河北町針岡）



い　ち　い（河北町飯野川）

い　ち　い

位 置 河北町飯野川旧会所前（旧飯野川町），
町の中心部

概 説

一名オツコ，オンコ，アララギとも言う。常緑針葉樹で一般には庭木として低い半球状に刈り込んで賞揚される。飯野川町旧会所前木村清氏（医院）の前庭にあるこのいちいは樹形は格別に巨大で，勢もよく，地区内では稀に見る名木である。樹齡推定 300年，樹高約 12m，枝の広がり約 18m。

〔注〕いちい

日本の北部から中部にかけ深山に生えるが，人家にも栽培される。昔この材から筋（しゃく）を作ったため，位階の正一位，従一位にちなみ「いちい」の名が生れた。木の高さは時として 20m，径 70cm に達することがある。

高野檜

位 置 河北町日影（旧飯野川町），町の北約
1 km

概 説

源光寺境内に立つ。樹齡凡そ300年。樹高
約30m，目通り約1.5m，枝の広がり約8m。

〔注〕高野檜

ほんまきともいい我国特産の常緑高木。
紀伊半島から四国、九州の山地に自生して
いるが庭園にも多く栽培され、高さ12m位
になる。紀州高野山に多いという理由で高
野檜と名づけられた。



高野檜（河北町日影）



桧（河北町飯野本地）

桧

位 置 河北町飯野字本地（旧大谷地村），町
の西北約4km

概 説

飯野山神社境内、西側の上にそびえ立つ。
樹齡凡そ400年。樹高約20m、目通り約5m、
枝の広がり約10m。



杉 (河北町飯野本地)

杉

位 置 河北町飯野字本地（旧大谷地村），町の西北約4km

概 説

飯野山神社の境内にあり。樹齡約400年，樹高約30m，目通り約2m，枝の広がり約15m。



桂 (河北町飯野本地)

桂

位 置 河北町飯野字本地（旧大谷地村），町の西北約4km

概 説

飯野山神社境内の西側にそびえ立つ。樹齡凡そ300年，樹高約30m，目通り約3m，枝の広がり約10m。

桺

位 置 河北町小船越字中門（旧大谷地村），
町の西約 3 km

概 説

小船越館の山内友四郎氏屋敷入口にあるエ
グネの桺である。

樹齡凡そ 300 年，樹高約 25m，目通り 5 m
枝の広がり 30m。地上 2 m の所で二股にわか
れる。



桺 (河北町小船越)



黒 松 (河北町吉野)

黒 松

位 置 河北町吉野（旧大谷地村），町の西北
約 3 km

概 説

吉野の飯野山神社入口鳥居をおおってそび
える。樹齡凡そ 300 年，樹高約 30m，目通り
約 5 m，枝の広がり約 20m。

化 石

二枚貝の化石

位 置 河北町牧ノ巣（旧飯野川町），町の東
北約 5 km

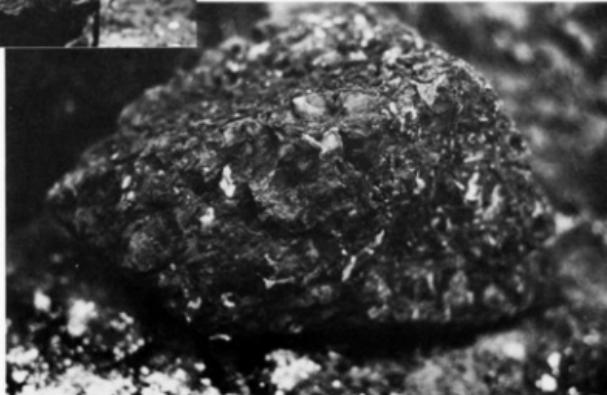
概 説

牧ノ巣の高橋修一氏，山下忠之氏両家の庭には庭石として使用される二枚貝の化石の岩がある。ともに付近より採取したものの由で，

この化石は 15,000 万年前の中世代ジユラ紀の産物と言われ、地質時代のこの地方の地層や生物の関係を調べる資料として貴重である。



二枚貝の化石 No.1 高橋家所蔵のもの



二枚貝の化石 No.2 山下家所蔵のもの

自 然

上 品 山

位 置 河北町三輪田（旧二俣村），町の東南
約 6 km

概 説

河北町二俣と石巻市福井との分水嶺，篠峰山系，硯上山系の中間に位置する標高 467.8 m，桃生郡有数の高山である。最近はこの山頂部は町営牧場として開発され，面積 230ha の広大な草地には春五月から秋十月下旬まで約 250頭の牛が放牧され，畜産上一つのエポックを築くにいたった。また，山頂付近には運輸省航空局のレーダー基地も完成，頂上までの道路も舗装された。

山頂からは視野をきまたげるものは何もなく，眺望は，きわめて雄大。南は石巻湾，牡鹿半島，奥松島まで，西は桃生，遠田の沃野，江合，迫，鳴瀬の大河の流れ，そして奥羽山脈にまで，北ははてしなく続く北上山脈の山波など，そして最近新設なった北上大堰を中心とする北上川の風光など一眺のものとおさめることができる。

最近は町の名所として，観光地として一躍注目されるようになった。



上 品 山
(河北町三輪田) No. 1



上 品 山 (河北町三輪田) No. 2

川の上前遊水地帯

位 置 河北町川の上（旧大谷地村），町の西
約1.5km

概 説

川の上前の旧北上川流路，現在の遊水地帯は白鳥の飛来地として有名で，冬期間には數十羽の白鳥が棲息，遊泳し，町内の人々は勿論，国道45号線を往来する旅行者たちの目を楽しませてくれる。



川の上前遊水地帯 （河北町川の上）

北上大堰を望む

位 置 河北町根岸～外吉野（旧飯野川町～
大谷地村），町の北約2km

概 説

国道45号線根岸地区と，向いの外吉野にまたがる北上大堰は昭和50年10月に完成した。総事業費70億を費した全長335.4m，中央のメインゲート3門はわが国最大のものと言わ

れ，治水，かんがい用水，飲用水のための多目的ダムで，今後その威力が大いに期待される。

新北上川の流路でもあるこの国道沿線は，かつて江戸時代の初め，この地を通り柳津に抜けた佛性芭蕉をして，「心ぼそき長沼」と嘆かしめた。荒涼たる野趣をたたえたこの合戦谷の山狹も今は新北上川の水を満え，更に巨大な近代的なダムが姿を現わすに及び，町内に，新しい一つの名所，景勝を加える所となつた。



北上大堰をのぞむ （河北町根岸～外吉野） No.1



北上大堰をのぞむ （河北町根岸～外吉野） No.2

新北上大橋

位置 河北町釜谷（旧大川村）～北上町釜谷崎（旧橋浦村），河北町役場より北東約12km，
北上町役場より南約5km

概 説

新北上川（追波川）には飯野川橋が只一つあるのみで、旧大川地区と橋浦、十三浜地区との諸般の交流が意の如くならず、古くより地域民は新架橋の実現を希求しながらも、東北地方随一の大河のため、その技術面、予算面で見込み立たず今まで放置されてきた。しかるに昭和45年郷人の渴望と、斯道の人々の努力により、架橋工事に着手することができ、以来8年の歳月と、17億円という巨額の事業費を要し昭和52年完成となった。竣工式（渡り初め）は51年12月17日に行われた。新橋の規模は全長565m、巾は車道が6.5m、歩道が2mもあり、名実ともに大北上川の大橋にふさわしい、東北地方有数のスケールの見事な出来映えである。

本橋の完成により、将来河北町と北上町の交通は言うに及ばず、雄勝町、志津川町、石巻市など近隣市町村の産業、教育、文化の交流の上で、まさに“かけ橋”としての使命を果してくれるわけで、その実現を心より慶祝したい。

なお、新北上川大橋の完成により、新北上川から追波湾にかけての明麗なる風光、景勝に一点の人工美を加え、その風景には一層の詩情を添えることになった。

大橋の完成にともない、明治以来続いてきた「釜谷渡し」は姿を消した。



新北上大橋



釜 谷 渡 し

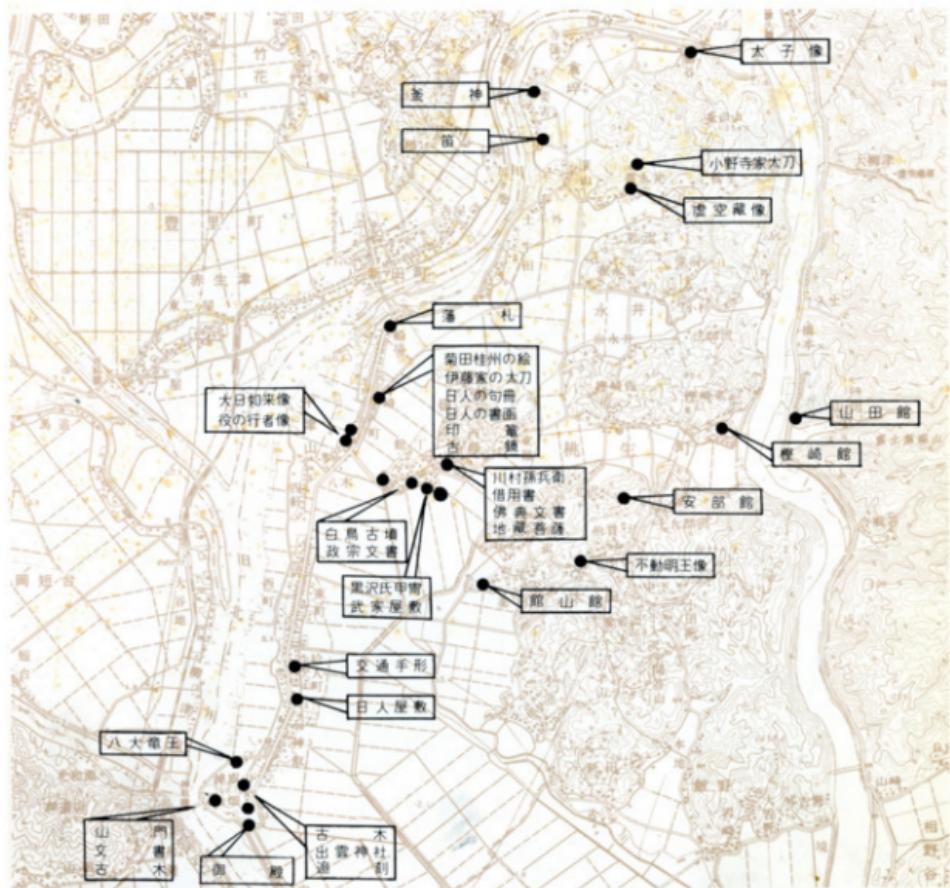
新潟県の古跡大観

桃生町の部

古子城館址	108
仏像，神像	112
古墳	116
古碑	117
古建築	120
旧跡	122
古文書	124
武具，器具物	129
美術工芸	132
古木	135
民間信仰	137

注 位置を表わす「町の北約△km」或は「町の南約△km」は、それぞれの町役場の所在地を基点としての距離です。

桃生町の文化財



古城館址



檜崎館址 (桃生町字東館)

檜崎館址

位置 桃生町檜崎字東館 (旧桃生村), 町の
東方約 3 km

概説

桃生町東部の檜崎の佐々木恒平氏宅直ぐ後の約 50m 位の高さの独立形丘陵が館址である。

城主は山内首藤氏麾下の武将、男沢内膳であって、永正合戦 (1515年) の兵火にかかり落城したと云われる。男沢内膳はその後葛西の臣下となったと思われる。当時はこの城の前面は北上川の合流地点に当っていたので、城としての意義は大きい。城は平山城の形式で東西約 300m, 南北約 200m 位。

丘の頂上の東西 110m, 南北 80m の広場は

本丸で、現在は畠地になっている。本丸の一段下の広々とした平地が馬場跡で、本丸の東南方に伸びた地続き直径 70m 位の円形の畠地が二の丸である。本丸の背後 (北側) は杉林の断崖となっていて、そこに巾 10m 位、東西 100m に伸びる空塙が残って居り、以前は西侧にも続いていたというが、この部分は今は埋めつくされてその様がない。

「仙台領古城書上」に「山内館城」として、東西 38 間、南北 24 間とある。

山田城（館山城）址

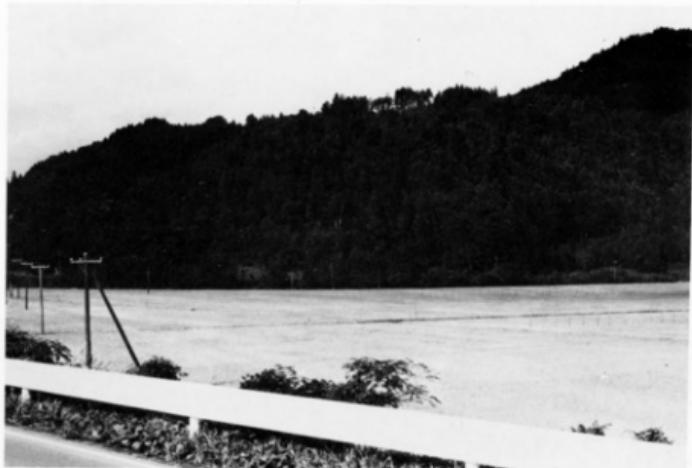
位 置 桃生町櫻崎字山田金辻（旧桃生村），
町の東方約 6 km

概 説

国道45号線、バス停「山田」の、部落入口の直ぐ上に見える山の突端部が山田城址である。

「古城書上」には城主山田弥右衛門とあり、永正合戦記には山田阿波治景と云う者が登場する。葛西家臣の中、山内首藤方に味方し、永正合戦（1515年）に滅亡した一族の城である。

高さ約 80m、東西 350m、南北 120m 程の規模で、北上川の流路の街道に構えた広大な山城で、南東部の東西 80m、南北 40m 程の平場（現在畠地）は二の丸、その後方の頂上部にある直径約 50m の円形の平場は本丸址で今は杉林となっている。本丸の上 30m 程進むと、大きな空壕が掘られている。



山田城（館山城）址　（桃生町櫻崎）

安部館址

位置 桃生町太田字欠下（旧桃生村），町の東方約3km

概説

太田十貫に鎮座する延喜式内社日高見神社の背後地にあって、高さ80m位の山城である。東西200m、南北130m、本丸は山頂の直径約100mの円形の広場で、今は杉林になっている。二の丸は本丸より約4m下に広がる広場で、巾10m以上で本丸を囲んで特に西方が広く、典型的な輪郭式の形となる。この二の丸の西方は現在開田となり、開田以外

は杉林となっている。この杉林のため眺望はよくないが、開田地よりの眺望はすこぶるよく、当時は四面の視界がひらけ、屈強の城であったことが判る。

「風土記」に、安部の貞任、前九年の戦に籠城の所とあるが、近くに日高見神社があり、往時の北上川の流路に当っていること、展望条件などにより、桃生城のあと、との推論がなされてきた。



安部館址（桃生町太田）

館山館址

位置 桃生町太田字菜田（旧桃生村）、町の東南約3km

概説

菜田部落の西端に位置する高さ10m位の小丘が館山館址である。

東西の両側にコブ状の平場があり、ここが居館として使用されたと見られ、西側が本丸、東側が二の丸と推定される。

現在は東端の一部が雑木林、他はすべて開

田地となっていて昔の面影がどこにもない。

「仙台領古城書上」には「山館山城」、東西49間、南北19間とある。城主厨川次郎。大昔、阿部貞始九年の役に籠城——とある。「風土記」にも右は八幡太郎義家公安部の貞御征伐の節、御住居の由、申伝え候… …とあり、古い城址である。



館山館址（桃生町太田）

神像仏像

聖徳太子像

位 置 桃生町倉坪字脇谷（旧桃生村），町の
東北約6km

概 説

脇谷の郷の神太子堂に安置される。この地には脇谷山十王庵と称する一寺があって、同寺の本尊であった。十王山は寛文12年（1672年）に開山され、明治5年に廃寺となっているが、この像は昭和初期まで、同寺跡に祭られ、のち北方約100mの所の現在地に移され、同地方の人々の信仰を一身に集めて来た。

○総丈63.5cm、木彫り一本造りの立像で、本地の木目に歴史の深みが感じられる。

○製作年代…背面に慶長14年（1609年）正の内8日の銘が見える。

○右手首はなく、左手もまた後年補修のものである。

○香積寺の古記に「本尊聖徳太子。御丈2尺1寸立像。右ハ木像ニ御座候」とある。

〔注〕聖徳太子

用明天皇の皇子で、積極的に仏教を受容して国家の思想的基盤とすることに努めた。法隆寺の諸像をはじめ、鎌倉時代には日本の仮造として信仰され、童形の南無太子像、青年期の十六歳孝養像、壯年期の束帶形の摄政太子像、馬上太子像など各種の姿にあらわされる。



聖徳太子像（全身）　（桃生町倉坪） No.1



聖徳太子像（顔面部）　（桃生町倉坪） No.2

虚空藏菩薩像

位 置 桃生町永井字棟塚（旧桃生村），町の東約4km

概 説

- 棟塚の高橋一氏宅の仏壇に安置される仏像。
○木彫り一本造り、極彩色調立像。
○総丈51.5cm、像高35cm、巾9.5cmで高さ6cmの台座の上に立つ。
○製作年代は江戸時代後半と推定。

〔注〕虚空藏菩薩

広大無辺の功德を包蔵して虚空のように破壊することのないという意味をもつ菩薩。主尊の形にはいろいろあるが、胎藏界のものは右手に劍（光焰あり）、左手に蓮華（華上光焰宝珠）をとる。この像はその例である。



虚空藏菩薩像（桃生町永井）



地藏菩薩立像（桃生町域内）

地藏菩薩立像

位 置 桃生町域内字西嶺（旧中津山村），町の東1.5km

概 説

- 元香積寺三尊仏の脇仏で像高58cmの木彫寄木造りの立像である。
○室町時代後半（1500年代）。
○作者不明。
○両手、左足、白毫が欠損しているが、彫刻、彩色共にすば抜けて見事である。又、顔の表情の「秀麗さ」は誰でも一目で惚々とする逸品で、中央仏師の作と思われる。
〔注〕この仏像は十大弟子の一人「阿難」であるとの説もある。

十王像

位 置 桃生町中津山字町（旧中津山村），町の北約0.4km

概 説

中津山の及川寿夫氏所蔵のもので、同家の神棚に祭られている。神仏混淆の時代、白鳥神社に祭祀されていたと伝わるが、及川氏屋敷は「大館法印」と呼ばれ、代々白鳥神社の宮司の家柄であった関係で、その間幾多の変遷を経て、同家に祭られるにいたったのである。

○像高35.5cm、木彫の一本造り。材質は桂と推定。地方作と思われる素朴な造りである。

○製作年代…室町末期、作者不明。

○十王仏の一つと考えられるが具体的にはその名を知り得ない。

〔注〕十王

冥府にいて亡者の罪をさばく十人の王で、その中の閻魔王は有名である。亡者は七日ごとに一王を過ぎ、百箇日に平等王、一年に都市王、三周年に五道輪王の裁断をうけるという。



十王像（桃生町中津山）



不動明王像（桃生町太田）

不動明王像

位 置 桃生町太田字十貫（旧桃生村）、町の東約3km

概 説

十貫の曹洞宗吉祥寺の本堂内に安置される。以前は日高見神社に祭られていたのを戦後、同寺に寄進された。

○総丈97cm、像高57cm、木彫寄木造り、座像。○左手に索をとり、右手に剣をもつ、最もボビュラーな姿態である。

○製作年代、作者ともに不明。

○以前は彩色がほどこされていたが、今は剥げ落ちている。目が玉眼であるのが珍しい。

〔注〕不動明王

五大明王の一つ。大日如来が一切の悪魔、煩悩を降伏するために変化して忿怒の相をあらわしたもの。色黒く目を怒らし、左眼を細く閉じ、右の上唇を咬み、右手に降魔の剣を持ち、左手に縛の索を持ち、常に大火炎の中にあって石上に座する。

えん 役 の 行 者

位 置 桃生町中津山字町（旧中津山村），町の北約0.4km

概 説

中津山の及川寿夫氏所蔵。現在は同家の神棚に祭られている。明治初期までは白鳥神社に祭祀されていたものと伝わる。

○総丈 63.5cm、像高 54cm、木彫の寄木造りで、中々精巧な出来ばえである。

○製作年代は江戸時代。作者不明。

〔注〕役の行者

修験者の祖と仰がれる行者。奈良時代の人で、葛城山中で修道苦行して駿術を得、金峰、大峰などを開いた。一名、役の小角とも称される。



役 の 行 者 像 (桃生町中津山)

古 墳



白鳥古墳 (桃生町域内)

白鳥古墳

位置 桃生町域内字館下（旧中津山村）
町の東約1km

概説

小銚白鳥神社の石階、左側に見られる小高い丘がそれである。古老の伝えによると、「御白鳥が葬られた所」と言われ、その上を踏むと、トントンと空洞音響を発する。町内の古墳の中では最も形が明瞭な円墳で、中に石棺が埋まっている可能性がある。今後の発掘解明に期待したい。

板碑と念佛供養碑

位 置 桃生町神取（旧中津山村）、町の南約
4 km

概 説

神取山の鹿島神社境内に、古い時代の板碑に、のちに念佛の銘を追刻した一枚の珍しい供養碑がある。

No.1の図のように、この自然石は高さ130cm、巾60cmほどで、本来は板碑である。

中央に浅彫りにされた種子（梵字）のカンマン（）が見え、様式からして鎌倉時代に建立されたものと推定できる。

No.2の図のようにNo.1の板碑に江戸時代の人々が更に念佛の銘を彫りこんだもので、このような碑を追刻碑といふ。中央に南無阿弥陀仏とあり、宝永七年庚寅年（1710年）の紀元号が見える。下段にはその施主である神取町の善男女、例えは弥左衛門、茂四郎の母、弥太郎の母など三十数名の名が刻まれている。この石は板碑でもあり念佛供養碑でもあり、まことに珍しく、資料的価値も高い。

〔注〕カンマン（）は不動明王の意である。



鎌倉時代の板碑、種子はカンマン No.1



板碑と念佛供養碑（桃生町神取）



左の板碑（No.1）に上のように追刻した No.2

念仏供養碑

位 置 桃生町神取（旧中津山村）、町の南約
4 km

概 説

鹿島神社の境内に御影石で造られた高さ約150cm、巾35cmほどの豪華な念仏供養碑が立つ。中央にキリーグ（龕）の種子に続き南無阿弥陀仏とあり、両側には施主、桃生郡神取町女人衆中、建立の時は元禄七年十月二十六日（1694年）と刻まれている。塔の様式や造りなどから推すに、明らかに専門家の手によるもので、前面の上には天蓋紋様、下に蓮華座、そして裏面にも蓮華の花をデザインするなど手のこんだ豪華で丁重な供養塔である。

当時の講中の財力、宗勢を知る資料として価値が高い。

〔注〕キリーグ（龕）は阿弥陀如来の意味。



念仏供養碑（表）（桃生町神取） No. 2



念仏供養碑（裏）（桃生町神取） No. 2

八大龍王の碑

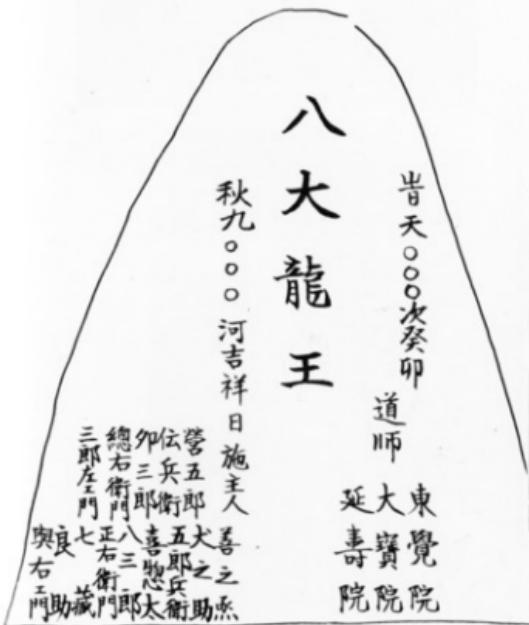
位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の南約
4 km

概 説

神取山西麓、北上川に沿う路傍に立つ。高さ 190cm、巾（下底）180cm の自然石で、天保14年（1843年）癸卯の年に建てられた。導師や施主人の名も明瞭に読みとれるし、河川、改修の工事安全、水上交通の安全を祈願しての建立と思われる。往古の水運のさまを推定する資料として価値が高い。

〔注〕八大龍王

龍は水中に住み、雨を呼ぶ魔力を持つと信じられる仮空の動物で、仏法の守護神、又は水神として崇信されて来た。龍王の形像は凡そ人身蛇尾にして、頭上に3～9個の龍頭を冠することが多い。



八 大 龍 王 の 碑 （桃生町神取）

建 築

出 雲 神 社

位 置 桃生町神取（旧中津山），町の西約4km

概 説

鹿島神社の西方に鎮座し、大名持の神を祀る出雲大社を中心とする信仰で、一般に縁結びの神、農神としての性格が著しく、昔は薬師様と云った云々と旧村史に在る。

建物は社殿造りでなく堂塔造りである。部落に残る「風土記」より抜書して見るに、

1. 仏閣1、薬師堂1、堂東向、戸間四面。

1. 本尊金仏坐像御長毫寸五分運慶作とある。

像は現在無く、縁を除き現在も方二間である。

尚昭和17年同所に在る鹿島神社改築の際、其の設計を担当された小倉強東北大学工学部（建築）教授が様式から見て桃山時代の物と推定されている。



林 昌 麓 山 門 (桃生町神取)



出 雲 神 社 (桃生町神取)

武家屋敷

林昌院山門

位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の南約4 km

概 説

曹洞宗林昌院の山門は、堅3間、横2間の樓門（二階）造りで、中々精巧な建築と言える。第十三世泰謙教道和尚の代、藩費を以って造営されたと伝わるが、その築造の年代に二説がある。即ち、その一つは安政5年（1858年）と同寺の過去帳にあり、その一つは当山門の棟書に文久2壬戌年（1862年）とあり、4ヶ年の差が見え、一定しない。

位 置 桃生町城内字館下（旧中津山村）、町の東約1.2km

概 説

佐藤昭三氏の屋敷である。初代齊伊左衛門より6代目佐藤万左衛門氏の代に建築した明治初年の建造物。

間口6間半、奥行4間、間取りは台所、上座敷、裏座敷、納戸の四室に区画され、外に離屋二室が続いている。その外の建物として同じ年代の板倉一棟がある。

佐藤家は代々黒沢氏の重臣で、万左衛門氏は藩学養賢堂に学び、ひろく文学芸道を研究し、明治戊辰の戦争には、幕僚の中にいて参謀の要職にあった。又、明治21年、寺崎村と中津山村とが合併して中津山村が生れた時の初代村長として3期間要職につき、村民の信望を一身に集めた人である。佐藤昭三氏は10代目相続人である。



武家屋敷（桃生町神取）

旧 跡

あつ じん 曰人屋敷跡

位 置 桃生町給人町字東町（旧中津山村）町の南約2km

概 説

仙台藩の大番士で、豪岸不屈の武士であり乍ら、俳人として全国に知られていた遠藤曰人については、「ふるさとの文化財」第1集にくわしく載っているので省略するが、曰人は諸国を遊歴して多くの俳人と交わり、旅先より帰れば「芭蕉庵」と名づけたこの屋敷で句作にふけるのが常であった。

当時の屋敷は6反屋敷と云われ、広大なもの

ので最近までは当時の梅林が残っていたが、現在は約300坪程で狭くなつた。本宅は一部増改築はされたが、大部分当時のままになっている。

曰人は仙台の本屋敷に帰る時、当時の家臣、平井七太夫に屋敷ごと与えた。現在平井氏の子孫、平井盛夫氏が居住していて、庭木類にも古木が多く、そのまま残っている。



曰人屋敷跡（桃生町給人町）



竹永剣士の屋敷あと（御殿）（桃生町神取）

竹永剣士の屋敷跡（御殿）

位 置 桃生町神取（神取山）（旧中津山村），
町の南約4km

概 説

神取山東南端の麓近く、小高い所に約800m²位の畠地がある。柳生飛驒守宗冬の門下で柳生心眼流の創始者、剣士竹永直人翁の居住した所と言わわれている。

直人は仙台生れになっているが生死は分明でない。藩に仕えることなく、その剣法を広く指南することに専念し、高須賀五十五人の足軽等にその門弟が多くいた。翁の死後、高須賀白髭神社境内に靈神社を祭り、その人柄を偲んだともいう。

屋敷には大正末期まで桜の大木があったが、今は枯死し、小さな若木が残っているに過ぎない。以前は「直人屋敷」と呼んでいたが、何時からか「御殿」と呼ばれるようになった。

蒲生麻山公（29世、伊達慶邦）封内巡視の折こ、に休憩されたという。

寛政4年（1792年）に同流の流れを汲む剣士で、高須賀の直參足軽の遠藤某が発起人となり、竹永直人翁師弟合祀碑を建てたのが白髭神社境内に残っている。

文書

伊達政宗書状



伊達政宗書状（桃生町城内）

位置 桃生町城内字館下（旧中津山村），町の東約1km

概説

域内の大熊弘行氏所蔵の政宗文書である。慶長元年閏7月29日（1596年），政宗が道三法印に宛てた茶会の招待状であるが，筆致が政宗文書に最も多く見られる書き癖で，信憑性が高い。

以上

其以来以書状も不申御床敷候

仍来月四日、六日両日間此書院二面

御茶申度候御出可願候此方ニ而終

不申入遺恨ニ存候、何も御報ニ可承候

恐懼謹言

閏七月廿九日

松陸奥守政宗
（花印）

謹上
道三法印御下

剃度儀軌典

位置 桃生町城内字峰（旧中津山村），町の東約1km



剃度儀軌典（桃生町城内）

概説

中津山香積寺に所蔵される。古来，曹洞宗僧籍に入るにあたり行われる儀式「剃度儀軌」の執行とその過程を述べた一つの教典である。本書は香積寺開山，法庵玄器和尚が書き上げた真筆で，永禄十一年（1568年）林鐘如意珠日の日付も見え，歴史的にも貴重である。

「剃度儀軌」の中よりその概説を述べれば，入山の弟子は最初に沐浴して淨衣をつけ，道場に入り，焼香三拜して師匠より頭を剃られ，三縛戒，三聚淨戒，十重禁戒を受け，かくて僧籍に入るを許されるのだという。

林昌院文書

位置 桃生町神取（旧中津山村），町の南約
4 km

概説

神取の林昌院所蔵の文書で、年代は定かでないが江戸時代前半に書かれたものと推定される。昭和40年頃、同院の襖の下張りの中から偶然に発見された文書で、これには北上川の新水路を掘鑿のため、林昌院が移転を余儀なくされ、そのためそれに見合う代替地を充当するように願いたい旨が書かれている。おそらく藩庁へ申請したときの文書の、した書きであったろう。

従来、新北上川が開鑿されたとき、神取山は人工的に切りとられ、ここへ水を流したのか、或は天然の水路が昔よりあったのか、など、神取山の開通の問題について多くの疑義と各説がなされてきた。しかし、この一通の「ふすまの下張り」は見事に「神取山の人工的開通」を証明してくれる。往古の北上川改修の鍵をにぎる資料として、本状の占める役割はまことに大きい。



林昌院文書 (桃生町神取) No. 1

此度北上川廻水抜御善請被成置神取山御堀切
被成置候ニ付当寺殿堂并厨一字茂不殘御挽方
罷成御建替被成ニ有候處寺地面之内顛倒
罷成ニ候付右御替地寺地續之御林唐竹敷
二而被渡下由御山林御役人衆被仰渡雖有仕合二
奉存候然所右御竹敷之分一字御拂ニ罷成地面計
被下置方ニ御山林御本メ衆御内々被仰渡所右
御蔽御替地之分毛上共ニ被下置候被成下度奉
願候全体ニ而当地の内唐竹敷有之處一字新川
御普請罷成尤拾三ヶ年前植立仕候小杉桑木
數拾本御伐方罷成候ニ付少々御手當被成下得共
次二八畳作大豆小豆大根菜園物其外不尽何々
一圓所不仕得共

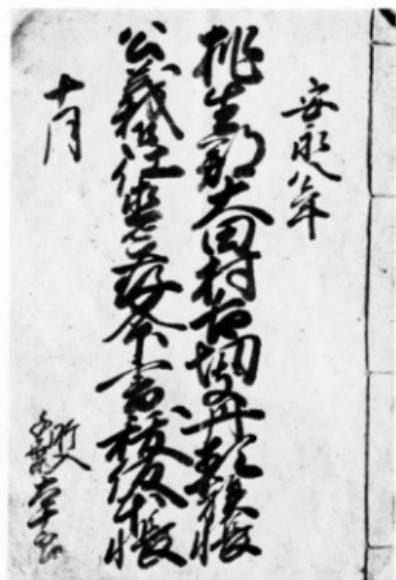
キリストン類族帳

位 置 桃生町小池（旧桃生村），町の南東約4 km

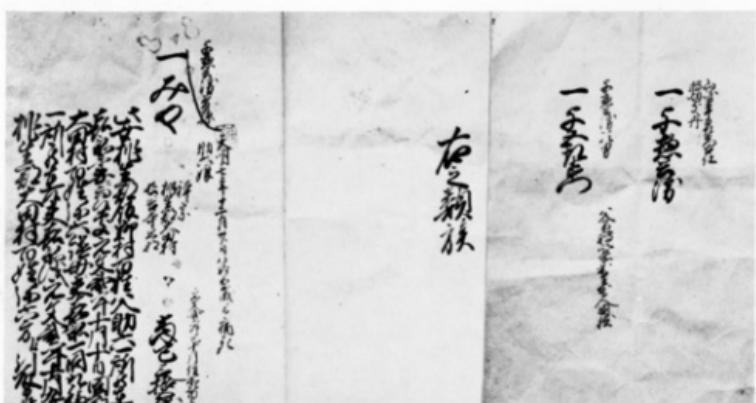
概 説

小池の伊藤氏宅にはキリストン類族者「みや」という女性の身許を記録した類族帳が現存する。みやの玄祖父三浦筑後はキリストンで、曾祖父与五左衛門は大谷地の山崎に住んで「伊藤」を称した。これまた転び（棄教した）キリストンであった。当時はキリストンの子孫がたとえそれが信者でなくとも、4代～5代にわたり類族者と呼ばれて、年々の類族帳に記録され、その身許と行動を厳しく監視された。それとは別に「宗旨人別改」という戸籍法のようなものとか「類族格式18ヶ条」という特別な条例などもあって、キリストン関係者は身動きできぬ取締りをうけた。それほどに藩政時代には、キリストンは危険な宗教として官憲が迫害と弾圧に乗り出したのであった。

太田村のみやというこの女性は、飯野新田（河北町）にいた曾祖父、玄祖父がキリストンであったため、太田村に嫁いだのちも類族者として厳しい制約をうけ、天明7年85歳で歿するまでその暗い影はついてまわった。当時のキリストン迫害の様態を知る上で、この資料は貴重である。



キリストン類族帳（桃生町小池）No. 1



キリストン類族帳（桃生町小池）No. 2

〔前略〕

山崎平太左衛門召仕

転切支丹

一、与惣兵衛

与惣兵衛次男 父不転以前出生本人同然

一、与五左衛門

右之類族

天明七年十二月廿日八拾五歳二而病死

助六娘

元文武年巳十月住所替之有

一、みや

神宗

桃生郡太田村

当己三拾五歳

長谷寺旦那

此女桃生郡飯野村百姓父助六ト一所ニ罷在候

喜兵衛妻ニ而候處、元文武年十月十日同郡

太田村百姓旁六繼母二夫喜兵衛一同取移

一所罷在候、夫喜兵衛儀元文武年十月九日

桃生郡太田村百姓旁六方江引取申付

夫一同取移一所ニ罷在候。

〔以下略〕

但旁六儀元未類族ニ無御座候。

川村孫兵衛の借用証

位置 桃生町域内字西峰（旧中津山村）、町の東約1km

概説

香積寺、川村家は北上川新河開拓の祖、川村孫兵衛の末裔の家柄で、孫兵衛系図その他、関係文書などが数多く保存されている。本文書もその一つであるが、これは孫兵衛らが連名の上、志田郡古川町の寿助という者（商人？）から金を借りたときに発行した借用証で、天和二年十二月二十二日（1682年）の日付が

見える。初代孫兵衛重吉は慶安元年（1648年）に病没しているので、本状の主は2代目、孫兵衛元吉であろう。

当時の藩財政を知る資料として価値が高い。

右金被為借所実正也
月壹歩之利息を加え
来年亥の七月元利
共ニ可被返下者也

天和武年十二月廿二日

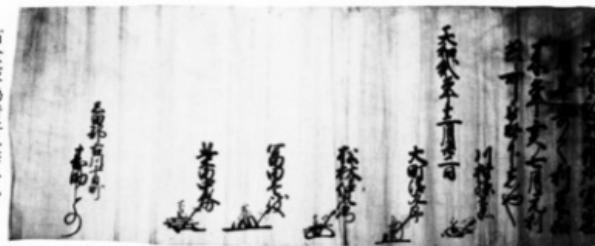
川村 孫兵衛（花押）

大町 清九郎（花押）

柴富 松林仲左衛門（花押）

田中 壱岐（花押）

寿助ど（花押）



川村孫兵衛の借用証（桃生町域内）

通行手形

位置 桃生町給人町（旧中津山村）、町の南
約2km

概説

給人町の末永姓氏が所蔵する江戸時代の関所通行手形で、寛政十二年八月吉日（1800年）発行の日付が見える。

当時、諸国を旅する人々には、地方の役所やその菩提寺の寺院、或は神社などで発行する証明書がなければ、街道筋の関所は通行できなかつた。本書は中津山香積寺発行の通行手形で「もし、道中で死亡したら、その土地で厚く葬ってくれ……」と頼んでいるあたり、当時の旅行の苦勞の有様が偲ばれる。



通行手形（桃生町給人町）

拙寺相中百之介先祖菩提の為
此度諸國順礼に發足仕り候間所々、
御開所御番所御通し下され度候
萬一何國にて相果て候はば此の方へ
御付届に及申さず候案其所御慈悲を以て
御葬り下され度候其寺証の為如件。
奥州仙台領桃生郡中津山
曹洞宗
香積寺 国
所々御開所
御番所
御役人様中

武具、器物



黒沢氏愛用の甲冑

位 置 桃生町城内字館下（旧中津山村）、町の東約1.5km

概 説

仙台藩着座 3,000石、黒沢要人の愛用の甲冑で、現在は黒沢氏家臣、織野氏（現当主、織野秀夫氏）の重宝として伝わる。幕末に同家の主君より拝領したもので、胴の内側に、「慶應元年十二月、黒沢要人」の朱書きが見える。

○背…前立は金色の半月形（径22cm）。八幡

座は真鍮製、四枚鎧の糸は紺色。前ひさしは南蛮鉄製、巾は7cm。

○胴…桶側胴で、色は黒塗り。

○袖…5枚の紺色縫。

○草摺…5枚の紺色。

○小手、脛当、鎖持…黒色。

○逆面…あざき色。

○帷子…黒色。

○鎧の座高は凡そ120cm。

黒沢氏愛用の甲冑（桃生町城内）

笛

位 置 桃生町倉坪字人家（旧桃生村）、町の東北方約5km

概 説

倉坪の八雲神社宮司、及川健吉氏所蔵。雅楽の龍笛と思われる。

文治3年（1187年）源義經、兄頼朝と不和、平泉の藤原氏を頼って下る途次、當時倉坪の白鳥神社（明治42年倉坪八雲神社に合祀）の別当、八剣山大型院（平泉方面よりの出）宅へ寄宿し、供人と共に小鼓を打ち笛を吹き舞を舞われ、後白鳥神社へ仮面（飛天の面と称す）と笛、二管を奉納したと伝えられる。現在笛一管のみ残り、他は古記録と共に散逸してしまった。



笛（桃生町倉坪）

笛は長さ39.6cm、材は卯木で、穴が吹口をのぞいて七ヶあり、籠で巻かれた黒塗りの横笛である。裏に金の象眼されていたと言う跡が残っていて江戸時代修理されたと伝わる。

尚、その別当屋敷（現在杉林）が残っているが、小鼓を打った所と言うことで「小鼓屋敷」と称していたが、途中説て「ごづみ」となり現在小堤の字をあてている。

太 刀

位 置 桃生町寺崎字町（旧中津山村），町の北 700m

概 説

寺崎の伊藤長宗氏所蔵。

○相州綱広の脇指（無銘，鑑定済）

刀長 54.5cm, 反深く巾広平造

地肌 壱目肌，刃紋は大乱。

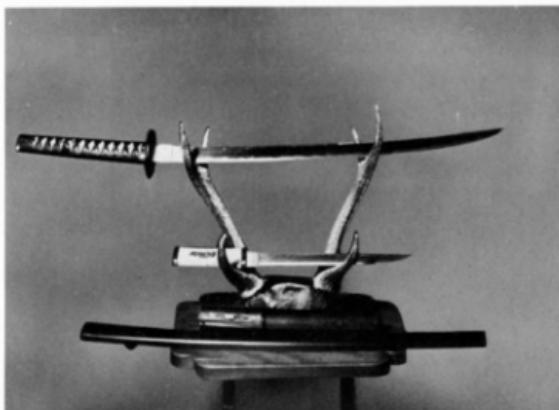
鶴は赤銅に龍の彫物，目貫は金無垢鶴，柄は白駒皮黑巻，鞘は黒蝋色塗，表に木瓜，裏に下り藤の定紋付。

○正次の短刀（在銘，鑑定済）

刀長 25.7cm, 無反り平造，極目胴。

刃紋 湾乱。

拵，目貫は金玉をつかむ龍彫刻の赤銅。蝋鞘定紋付。



太 刀 (桃生町寺崎)

太 刀

位 置 桃生町永井字糠塚（旧桃生村），町の北方 6 km

概 説

糠塚の小野寺岐氏所蔵。

小野寺氏の先祖は村田家の大目付の家柄であって、その先祖から伝わったものである。

○兼元の大刀（在銘鑑定済）

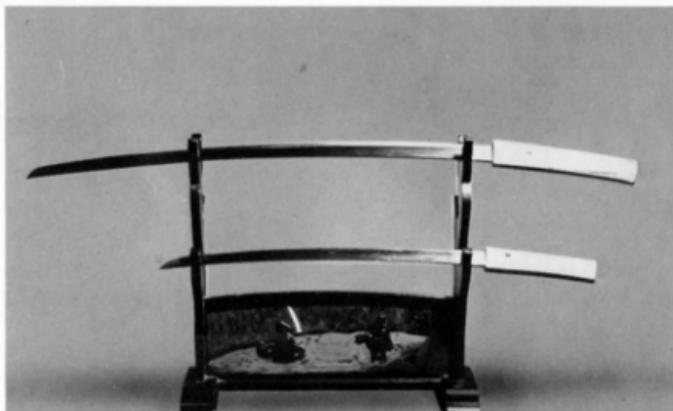
刀長 70.8cm, 反 1.9cm

刃紋 三本杉，板目はだ

○行長の小刀（在銘鑑定済）

刀長 49.2cm, 反 1.2cm

刃紋 大みだれ



太 刀 (桃生町永井)



藩札（桃生町寺崎）

藩札

位置 桃生町寺崎字舟場前（旧中津山村），
町の北1.5km

概説

寺崎の千葉惣一郎氏所蔵。

我が国の紙幣の始まりは、伊勢の山田の商人が約400年前の元和年間に発行された。次に寛文元年に福井藩で発行された、いわゆる藩札であった。この藩札は之を発行した藩の領内に限ってのみ通用した。

この写真は仙台藩発行の藩札で、タテ15cm、巾4.5cm大きさのものである。



印籠（桃生町寺崎町）

印籠

位置 桃生町寺崎町字町 町の中心地

概説

寺崎の西條清左衛門氏所蔵。

その1 たて 7.5cm 厚さ 2 cm

横 5.5cm

全体黒地の漆地に金蒔絵で松枝に鷹の地柄である。紐についた飾りは象牙で、アイヌ彫にみる人間の彫刻である。

その2 たて 10cm 厚さ 3 cm

横 5 cm

全体金茶色に、表は閻魔大王に鬼が1匹。裏は、うちわ、台に花の地柄。紐についた石は瑪瑙の様で直径 10cm ぐらいのものである。

美術工芸

古 鏡

位置 桃生町寺崎字町（旧中津山村）、町の中心地

概 説

寺崎の西條清左衛門氏所蔵。

その1 径 12cm 厚さ 1.9cm

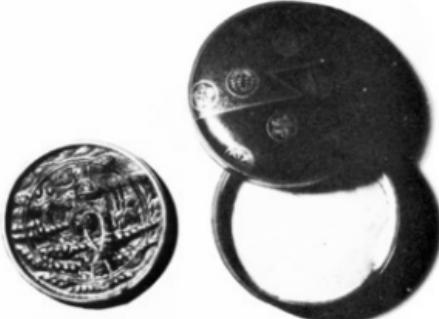
裏細工 中央に亀があり、取手の房をつけ
る穴があいている。全体に松・竹が小さ
くあり、あとは鶴が刻んである見事な出
来ばえである。漆器の容器入れであるが、
フタは紛失している。

その2 径 10.5cm 厚さ 1.3cm

裏細工 内容はその1とほぼ同様であるが、
やや細工は雑で、梅らしき模様が見うけ
られる。

紋様のついた漆器の容器が完全な形で残っ
ている。

古 鏡（桃生町寺崎）No.1



古 鏡（桃生町寺崎）No.2



菊田桂洲の画

位置 桃生町寺崎字町（旧中津山村）、町の
北 700m

概 説

寺崎の伊藤長宗氏、熊谷徳雄氏所蔵。

桂洲は文政8年（1825年）桃生町域内館下に生れた領主黒沢家の臣、織野作兵衛の次男であった。

仙台藩四大画家の一人菊田伊洲の弟子とな
って学ぶこと数年、技術大いに進み、師の寵
愛を受け、遂にその養子となった。後江戸に
学ぶこと数年、花鳥人物が得意であった。

寒山拾得の図は熊谷徳雄氏所蔵、三傑桃園
の儀を結ぶの図は伊藤長宗氏所蔵で、桂洲が
修業中高野山に登り模写（慶応3年）したもの
と伝えられる。

菊田桂洲の画「三傑桃園の儀を結ぶの図」
伊藤長宗氏所蔵

曰人の句刪くさん

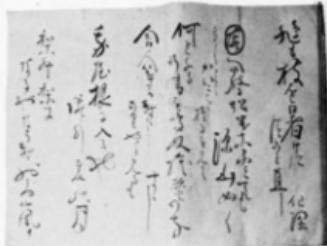
位 置 桃生町寺崎字町（旧中津山村），町の中心地

概 説

曰人句集から抜き書きした曰人句刪の表紙と内容の一部である。

曰人の弟子、西条お富（雅号可菊）に与えたもので、現在はその子孫の西条清左衛門氏が所蔵している。

曰 人 の 句 删 （桃生町寺崎）



No. 1



菊田桂洲の画「塞山拾得の図」
慾谷徳雄氏所蔵



No. 2





日人の書画 No.1 西條清左衛門氏所蔵

日人の書画

位置 桃生町寺崎字町（旧中津山村），町の
中心地

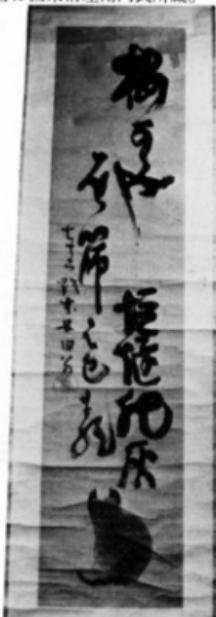
概説

日人は俳諧の大家でもあったが、又書画もよくし筆法雅淡逸氣紙上に溢れ、他に比べるもののがなく、頗る独特のものであって、書と画は渾然一体となり、一つの画面を形づくっている。絵は鳥羽絵系統のものと思われる。

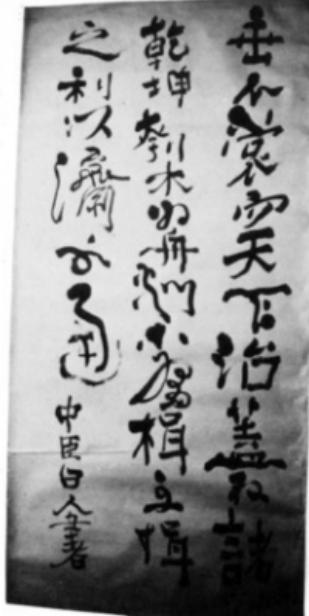
猫は熊谷徳雄氏所蔵。

句会は伊藤長宗氏所蔵。

書は西条清左衛門氏所蔵。



日人の書画 No.3 熊谷徳雄氏所蔵



日人の書 (桃生町寺崎) No.2



日人の書画 No.4 伊藤長宗氏所蔵

古木



い　ち　い　(桃生町神取)

い　ち　い

位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の南約
4 km

概 説

一名オンコ（オッコ）とも呼ばれる。常緑
針葉樹。神取の鹿島神社の境内にあるこの木
は、当地域内では珍らしく大木となる。

樹高約 3 m, 目通り約 0.8 m, 枝の広がり
約 10 m, 樹齢凡そ 200 年。



杉

位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の南方
約 4 km

概 説

神取林昌院の境内の西側北上川に向ってそ
びえ、幹は二股に岐れる。

樹高約 30 m, 目通り約 4 m, 枝の広がり約
20 m, 樹齢凡そ 400 年。

杉　(桃生町神取)



杉 (桃生町神取)

杉

位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の南約
4 km

概 説

神取山の鹿島神社の境内にあり。
樹高約 30m，目通り約 4 m，枝の広がり約
20m，樹齢凡そ 300年。



赤 松 (桃生町神取)

赤 松

位 置 桃生町神取（旧中津山村），町の西方
約 4 km

概 説

神取山の山頂鹿島神社の境内に在り。
樹高約 30m，目通り約 3 m，枝の広がり約
15m，樹齢凡そ 300年。

民間信仰



釜 神 (桃生町倉坪)

釜 神 (かまどがみ)

位 置 桃生町倉坪字要害 (旧桃生村), 町の北へ 5 km 高橋早之宅

概 説

釜神の多くは土製であるが、これは髭を生やした木彫で珍らしい。

材質は檜で、大きさ縦 51cm、横 44cm である。現在の家を建築すると同時に作りまつたと伝えられ、家の棟札には安政 7 年 (1860 年) とあり約 120 年前の作である。

編集後記

大河、北上川の終着駅、“ひたかみ”の流れ果てる所にあたるわが郷土は、文化財の宝庫でもあります。それは、みちのく文化が去来する往古の幹線路の玄関口に立地していたためです。

当地区文化財の基本調査の集大成である「文化財資料第1集」が創刊されたのは昭和47年でした。県下でも画期的な先鞭として、各地各界より高い評価をうけたのは周知の通りで、慶賀にたえぬところでした。以来、3年の歳月が流れ、当地区には新しい文化財が続々と発見、確認されるにいたりました。

最大のトピックスは、河北の「長者森」の丘が、国家的遺跡である「桃生城」の跡とほぼ確定されたことです。その他、和泉沢古墳群の様態も解明され、県指定の保護をうけるにいたったのも特筆の一つと言えましょう。

河北地区各地に分布する古碑（板碑）なども、その後の調査で数は急増し、とくに十三浜方面のものは庶民の手になる割合に新しい供養碑であることが判明し、中世の人々の繁栄と宗勢を知る貴重な手がかりを得ました。

その間、桃生城関係を通じ、東北大学伊東信雄名誉教授や多賀城調査研究所の岡田、氏家所長はじめ各スタッフには古代史の分野を、東北学院大学の佐々木慶市教授には中世文書や板碑関係を、そして、司東真雄もと奥州大学教授には仏像、墓碑、美術工芸方面的直接指導をいただき、充分、精緻を期すことができました。

以上の基本調査を土台にし、集録編集したのがこの「文化財資料集第2集」であります。内容的には第1集に勝るとも劣らぬ逸品ぞろいで、おそらく郷土の人々、或は参考にされる方々の満足をいただける本と確信いたします。

古代から中世・近世へと、すぐれた文化財をのこして群像が新旧交代したこの地帯は、高度の文化水準の地帯とも言えます。だが、往昔の文化水準が現代に共通し得ない現実は淋しい限りです。今日に生きる郷土の人々は、往古の誇りを各自の研鑽の糧として、より文化的に勝れた個人、集団の形成を目指し、更に格段の努力をなすべきではないでしょうか。

昭和51年暮

宮城県石巻高等学校にて

紫桃正隆

(編集責任者)

ふるさとの文化財
資料第二集
昭和52年1月

編 集 河北地区文化財保護委員会
宮城県桃生郡河北町相野谷字飯野川町121

発 行 河北地区教育委員会
宮城県桃生郡河北町相野谷字飯野川町121

印 刷 株式会社 針生印刷製本所
仙台市伊在（印刷団地3号）
☎ (0222) 88-5011 (代)

製 本 株式会社 中山製本所
仙台市伊在（印刷団地22号）
☎ (0222) 88-5381 (代)
